

まちのひとを紹介します！

このコーナーでは、地域のちよつとした有名な人を紹介します。

◆心優しいおばあちゃん

入野喜美恵さん(灘)

灘地区の墓地に「沖繩の人」と書かれた小さなお墓があります。お供え物もされており掃除が行き届いたきれいなお墓です。



埋葬されているのは沖繩の商業船に乗っていた機関長の遺体で、今から61年前の昭和24年8月15日、井の岬沖で台風のため遭難し亡くなった方だそうです。

「終戦後、物が無い頃で、商売用の鍋やかんなどを運んでいた船だと思う。怪我をした人がたくさん岸に上がった」。当時24歳だった喜美恵

さんは、部落の炊き出しを手伝うなどして助かった乗組員の世話をしました。

数日後、元気になった乗組員らは沖繩へと帰りましたが、機関長の遺体だけは引き取り手がなく、灘地区の墓地に埋葬されたままに。

喜美恵さんは、一人でさみしい思いをしているのではないかと心配し、以来ずっとお墓の管理を続けてきました。元気な時は毎日墓地に通い、「必ず沖繩からお迎えが来るからね」と話しかけながら手を合わせたそうです。

「灘部落の人たちが災難を逃れ、元気で生活できるように見守ってくださいと、いつもお祈りしています」。今年で86歳。まだまだ元気で心優しいおばあちゃんです。



「機関長さんにお礼を言われた夢を見たこともありますよ」と喜美恵さん。

◆駅の顔

今井祥文さん・紀子さん(芝) 土佐くろしお鉄道土佐入野

駅構内で営業していた喫茶店「くじらの家」が昨年12月、閉店しました。

当店では喫茶店の傍ら、町および土佐くろしお鉄道の依頼を受け、往復乗車券や定期券などを販売。永い間、利用者の利便性向上に協力していただきました。

「始めた頃は慣れずに時間がかかることもあった。たくさんの方々との出会いが財産です」と笑顔で振り返る紀子さん。最終日には町外からも常連客が訪れ、閉店を惜しむ声も聞かれました。

今後は、お孫さんのお世話をしながらゆっくりするとのこと。



「いろんな人に来てもらって、かわいがってくれて感謝しています」紀子さん。祥文さんは遠慮して厨房に入っていました。

夢と絆とたすきをつなげ！
県中 さらなる飛躍を期待

第18回全国中学校駅伝大会が12月19日、山口県セミナーパーククロスカントリーコースで行われ、5区間12kmで競われる女子の部に、県立中村中学校が高知県代表として出場。44分27秒の42位と上位進出はならなかったものの、最後まであきらめない粘りの走りを見せてくれました。



前列左から3人目が浜村ひかりさん、4人目が二宮萌実さん、6人目が山本紗羅さん、後列左から4人目が濱村真理さん。

駅伝チームには浜村ひかりさん(出口)、山本紗羅さん(田野浦)、二宮萌実さん(入野)、濱村真理さん(出口)が所属しており、全員が一丸となつてがんばりました。

【県中の区間記録】

1区	細木菜々恵	25位
2区	浜村ひかり	35位
3区	二宮 萌実	38位
4区	小笠 原慧	41位
5区	山本 紗羅	42位